

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

|                    |   |
|--------------------|---|
| <b>Title</b>       | (第 8 章)里長を中心とした南機場地区のまちづくり                  |
| <b>Author</b>      | 野村 恭代                                       |
| <b>Citation</b>    | URP「先端的都市研究」シリーズ. 16 巻, p.26-28.            |
| <b>Published</b>   | 2019-03-25                                  |
| <b>ISBN</b>        | 978-4-904010-31-0                           |
| <b>Type</b>        | Book Part                                   |
| <b>Textversion</b> | Publisher                                   |
| <b>Publisher</b>   | 大阪市立大学都市研究プラザ                               |
| <b>Description</b> | 包摂都市ネットワークの最前線：東アジアインクルーシブ都市ネットワークジャパンの活動報告 |
| <b>DOI</b>         |   |

Placed on: Osaka City University

Osaka Metropolitan University

## 第8章

### 里長を中心とした南機場地区のまちづくり

野村 恭代

#### 1 整建住宅とはなにか

整建住宅は、台湾の公的住宅のひとつである。1962年～1976年の間、公共建設事業により取り壊された違法建築集落に居住していた住民の移転先として整備された。なお、日本に同様の趣旨の公的住宅はない。

#### 2 南機場の概要

南機場は、台北市にある南機場地区を指す。6つの住宅団地から構成され、約6,000世帯が同地区に居住している。この住宅団地は、建設当時は高級住宅街であった。しかし、現在は老朽化が深刻な状態であり、住宅の老朽化と全体的な住環境の悪化により、経済力のある住民の地域外への流出が続き、低所得層、障害者、高齢者、所有権のない賃貸居住者などが地域に残り生活しているという状況である。そのことにより、家賃水準は下落し、低価格で居住できる住まいを求めて地区の外から社会的弱者層が当該地域に流入するという状況にある。

#### 3 まちづくりの取り組み

##### 1) 地域づくり

南機場地区の中心には、地域内に居住する社会的弱者へのサービスを提供する場が開設されている（図 7-1）。当該場所では、主として教育及び福祉サービスを提供しており、加えて地域住民の交流の場としての機能も担っている。さらに、市立図書館の分室や勉強塾を施設内で運営することにより、多様な住民の利用を促している。市の助成制度を活用した配食サービスやカフェ事業も展開している。

## 2) フードバンク事業

福祉拠点施設としてのフードバンクを、地域の北西部に開設している（図 7-2）。ここでは、さまざまな団体から集められた物資を支給するため、地域の社会的弱者を主な対象として、地域通貨の仕組みを導入し、物資と等価交換できるしくみを作っている。なお、このしくみのモデルとなっているのは、大阪府箕面市の北芝を中心に展開されている地域通貨「まーぶ」である。



図 8-1 地区内の拠点施設



図 8-2 フードバンク

#### 4 南機場のまちづくりの意義

里長が個人的に（個人名義で）地域の社会的弱者（世帯）のために物資等を集めて配布するという取り組みから始まった南機場の活動は、個人で行っているがゆえに限界が生じた。そこで、集めた物資を一括に管理し、必要とする多くの人々に配ることのできるしくみづくりに転換することとなった。このしくみのなかには、多くのボランティアが含まれており、このことは、活動の継続性を考える際には重要な点である。支援を必要とする人がいて、社会的に意義のある活動は、始めたもののうまくいかなかったらやめる、ということは確実に避けなくてはならない。活動を始めたからには、必要とする人がいる以上、継続させることへの責務を有する。南機場では、里長を中心として責任を全うするという覚悟がみられる。

また、まちの中心に「福祉拠点」をつくり、そこは福祉の拠点としてのみならず、多くの地域住民が集うことのできる地域拠点の機能も担っている。地域のなかのつながりをつくる時、この拠点の果たす役割は大きい。日本のまちづくりにおいても参考すべき点が多々ある、有用な事例であると考ええる。